

麻績村の教育方針に関する研究検討委員会

「第 19 回保育園・学校部会」 会議録

日時 令和 3 年 3 月 4 日 午後 5 時 00 分

場所 地域交流センター 第 3 研修室

出席委員

小山正文(麻績村教育委員)	中原 敏(筑北中学校長)
赤羽利樹(筑北中学校教頭)	峰田由紀子(筑北中学校教務主任)
佐々木英明(麻績小学校長)	高野恵理(麻績小学校教頭)
草間 隆(麻績小学校教務主任)	臼井孝夫(麻績保育園長)
市ノ瀬淳一(麻績村教育委員)	宮川裕満(麻績村教育委員)
白木和真(R2 麻績小 PTA 会長)	刈間伸一(H29 麻績小 PTA 会長)
小山芳道(H29 筑北中 PTA 会長)	

欠席委員

市川祥介(前麻績村教育委員)	高野羊子(R1 麻績小 PTA 会長)
柳澤友則(H30 麻績小 PTA 会長)	三浦 充(R2 筑北中 PTA 会長)
藤原宗功(R1 筑北中 PTA 会長)	山本一義(H30 筑北中 PTA 副会長)

教育委員会事務局 飯森 力(教育長) 塚原優仁(教育次長)  
佐藤克哉(主事)

傍聴者 0 名

1. 開会

**教育次長**：定刻となりました。麻績村の教育方針に関する研究検討委員会第 19 回保育園・学校部会を始めさせていただきます。よろしくお願いたします。本日市川部会長が 4 月で教育委員を退任されたということで、教育委員として出ただいていた訳ですが退任したので遠慮させていただきたいということで欠席となっています。それでは部会長あいさつをお願いいたします。

## 2. 部会長あいさつ

**副部会長**：副部会長の小山と申します。本来であれば部会長の市川先生からあいさつをしていましたが、今お話がありましたように欠席ということですので私の方から一言述べさせていただきます。平成29年6月に第1回の会合を持ちまして、それから全18回ありまして前回は令和2年2月10日ということでちょうど1年ほど前だったんですが、その後コロナ感染対策で密を避けるということで、この会合も開けないままになっていましたが今年の令和2年4月1日から筑北中学校が麻績村立ということでスタートしまして、それから約1年経過しましたので様子を小中学校の先生方からお話いただきながら会を運営していきたいと思っております。当初スタートした平成29年6月に12項目に分けて検討するというので、学力向上、外国語教育、ICT教育、道徳教育、人権教育、読書指導、健康教育、ふるさと学習、児童会生徒会活動、防災教育、特別支援教育、PTA活動、コミュニティスクールという12項目に分けて、終わりは当時平成32年3月ということで令和2年3月で麻績村立筑北中学校がスタートする前に方向付けをしようということでこの部会が始まりました。全18回昨年までに開催してきました。そういう中で先生方に色々のご苦労いただきまして学力向上に関しましては、各家庭にあると思っておりますがリーフレットを作成していただいて小学校から中学校に上がるまでの勉強をこういう形でやっつけていこう、1日何時間勉強しようというような形のものを作成していただいて、各家庭でも取り組んでいただいているかと思っておりますが、そんな形で段々と形が見えてきているかなと思っております。スタートした時も今申し上げました通り令和2年3月で区切りを付けようということでスタートしておりました。それから約1年経って令和3年3月になりますが、一応この部会としましては私個人の案ですが、一旦区切りを付けても良いのではないかと考えております。次第にありますように最後の方で皆さんからご意見をいただきますので賛成反対の意見をいただければと思っております。それでは協議事項に入っていきますがよろしく願いいたします。

**教育次長**：協議事項に入ります前に今年度初めてとなりますので副部会長から自己紹介をお願いいたします（以下、出席者自己紹介）。

### 3. 協議事項

**教育次長**：それでは、協議事項に入りたいと思います。協議につきましては、部会長に進行をお願いいたします。

#### (1) 部会長より報告

**副部会長**：それでは、部会長より報告ということで私の方から報告をさせていただきます（以下資料に沿って説明）。今までの活動について何かご質問等ございますでしょうか。発足した当初から上からこうしようということではなくて、皆さんが実践しながら、歩きながら色々考えていこうということで始まっていますので、この2年間、3年間色々な状況の変化の中でやってきています。よろしいでしょうか。それでは次に進みます。

#### (2) 令和2年度 一貫教育に向けた事業等について

**副部会長**：令和2年度の一貫教育に向けた事業等についてということで、中学校から順番にご発表をいただきたいと思います。よろしくをお願いいたします。

**委員**：お願いします（以下資料に沿って説明）。

**副部会長**：続いて小学校お願いいたします。

**委員**：中学校の方と一緒にまとめた資料がありますので、それ以外の部分保育園との繋がり、ふるさと学習等について教頭から説明をさせていただきます。

**委員**：お願いします（以下資料に沿って説明）。

**副部会長**：続いて保育園お願いいたします。

**委員**：保育園の方ですが本日資料のようなものはありません。一貫教育に向けた事業ということですが、従来お話申し上げておりますが小学校と中学校の義務教育と保育園の保育の一貫となりますので、どういうスタンスでやれば良いのかという疑問もありながら進めてきた訳でございますが、一番考えてみるに小学校と保育園のつながりにつきましても色々な面で交流したり、行事につきましても参加させ

ていただいたり見学させていただいたりさせていただいています。中学につきましても生活科の実習や職場体験等も受け入れて中学生に見てもらおうということでございます。小学生も中学生も元は麻績保育園を卒園しているということで、一貫教育に向けた話につきましても職員同士でもしておりますが、まずは生きる力を育むのが保育園の役割ではないかと考えています。その力を身に付けた後、小学校と中学校で枝を伸ばして花を咲かせるというようなことに繋がっていけばいいかと考えていて、特にこれをやったからというものはないと思いますが、今までの活動をさらに充実させていけたらと思っております。

**副部長**：ありがとうございます。今年はコロナ禍ということでそれぞれの交流も難しかったかなと思いますが、出来る範囲で色々なことが出来ましたし、ICTの部分でもコロナ禍の中で前倒しして出来たんじゃないかと思えます。村の方でも予算の関係をいろいろやっていただいて上手く進んだんじゃないかと思えます。中学校の方から発表がありました通り分離型であるがために交流の場を日頃の中でなくて、交流の場を設けていかななくてはいけないというのは分離型の難点かと思えますが先生方にうまくやっていただいているのではないかと思います。

### (3) 令和3年度 計画について

**副部長**：令和3年度の計画について今それぞれから発表していただいたことに付け加えていただくことがありましたら中学校からお願いいたします。

**委員**：担当同士がもう少し詳しく打合せできる場を整えていく必要があるなと思っています。例えば授業づくりであれば授業づくりを担う研究主任同士が「今年はどうしていこう」ということを打ち合わせるような場を、ふるさと学習であれば両校のふるさと学習の担当が集まったり、もっと言えばその方向に持つていくためには校長や教頭同士が集まる場をきちんと作ったりと、担当同士が打合せできるような機会を設けていく必要があると思いました。児童生徒の交流の機会を設けるということについては今後の方向を再度検討して出していただく必要があると思っています。それは学校の中で検討する

ことではないかと思しますので教育委員会の方でお示しいただけるとありがたいと思います。

**副部長**：当然今後の方向ということになると村全体の話になりますので教育委員会が毎月開かれておりますが、その中に保護者代表の委員もいらっしゃいますしその時に小中学校の校長先生もご参加いただいておりますので、その場を使いながらお示しいただきました課題等も整理していきたいと思えます。小学校の方から付け加え等ありますでしょうか。

**委員**：交流型学習の共通理解は図れたのではないかと思しますので、コロナ禍でスタートできなかつたことがあります但来年度は最初から日常的な授業の中でこれを意識した取り組みをしっかりとしていきたいということと、ICTの関係でICTを用いながら交流型学習を広げていきたいと思えます。ふるさと学習については、中学校と確認をしている訳ですが本校を今年見ていると総合生活についてそうはいつでも若干停滞したなと思っています。来年度は総合生活、ふるさととの繋がり、人との繋がり意識した学習を各学年大事にして柱にしていきたいと思えます。それに合わせて中学校と重なっている部分をどのように整理して9年間スッキリした計画を出していけるかということを考えていきたいと思えます。

**副部長**：ふるさと学習につきましては、この部会が発足した当時から小学校と中学校で被っている部分について難易度で分けるということもありますが、整理した方が良いのではないかとということが課題でございましたので、小中学校の先生方で連絡を取りながら進めていけたらと思えます。保育園の方からは来年度の追加等ありますでしょうか。

**委員**：特にありません。先ほども話をしましたが令和3年度につきましては今までの活動をさらに充実させて保育の質を上げていきたいと思えます。

**副部長**：事務局からお願いいたします。

**教育次長**：今年度に関しましてはコロナ禍ということでこの会議も開けませんでしたし、それぞれで色々な課題を項目ごとに検討していくということが出来ませんでした。その中でも先ほどまで先生方から話がありました通りICT教育に関しましては、コロナ禍ということもありましてオンライン学習の関係で校長先生、教頭先生、教職員の方

のご尽力によりまして検討していたより勢いよく進んでいったかと思えます。先ほど話がありました通り福祉施設や学校間でもオンラインを使ったということをございますので良かったのではないかと思っております。引き続き令和3年度におきましても研究検討を進めていきたいと思えますし、国で進めておりますGIGAスクール構想に関しましても小学校と中学校それぞれで設備を整えている段階でございます。小学校につきましては環境整備とタブレットを納入させていただきまして今年度末、来年度から運用が出来るようになっております。中学校におきましても今月15日で工事が終わる予定ですので、その後タブレットを納入させていただきまして来年度からタブレットを使っての学校教育が出来るように支援をしていきたいと思えます。タブレット運用に関しまして色々な課題がこれから出てくるかと思えますが、その時その時で検討をしていきながら進めていきたいと思えますのでよろしくお願いいたします。

#### (4) 保護者からの意見・要望等について

**副部長**：それでは保護者からの意見要望ということでお願いいたします。

**委員**：子どもが今6年生で来年から中学校でお世話になります。私も麻績に移住してきた者なんですが、村の方でこういった小中一貫教育ということで、私自身教育に関わってきたことがなかったんですが、自分の子ども時代と比べると少人数のメリットというのを感じています。6年生現在24名ですがとても絆が強くて中学校に同じメンバーでいけるということ子どもはすごく楽しみにしています。村でこういった小中一貫教育ということを進めていただけるということは、親としての立場としてはとても喜ばしいことだと思います。自分の子ども時代と比較すると少人数のメリットはすごく大きいのですが、どうしても保育園から中学校まで同じメンバーで進むということで、デメリットの部分で不安があります。そこをこういった部会で検討していただいて良い方向に進めていただければと考えております。

**副部長**：今ご意見がありました同じメンバーで進むということ、義務教育で9年間、保育園も含めると10年以上同じメンバーで子どもの交流がなかなか出来ないということ、親も同じ親でということでも良しき

にせよ悪しきにせよという部分があると思います。この部会でも話が出ましたが他の学校との交流、国際教育という中で海外との交流等もという形でしたが、今年度につきましてはくどいようですがコロナ禍ということで外との交流が中々出来なかったということがあります。そういうことでこの部会でも固定した人間関係を少しでも広げようというような形で話が出ていました。それを今後いろんな面で村を含めて活動できるような形を作っていければと思います。

**委員：**平成29年の会発足当時を振り返ると、今と比べたら「一体どうなるんだろう」という不安が多かったということが保護者の第一印象でした。そこを先生方が小学校と中学校が一緒になって話し合いをしていただいた中で、あっという間でしたが去年はコロナ禍ということで私自身もあまり活動の中に入れなかったんですが、今日までの姿を見ていてものすごく進んだなということが私の第一印象です。幸か不幸かコロナの影響で例えば当初本当に出来るのかと思っていたICT教育の関係は、あれよあれよという間に小学校も中学校も進んでもらったというのは悪い方向を逆手にとって良い方向にもって行ってもらって、すごく良いことではないかと私自身も感じています。私の子も今年で中学を卒業ということになりますが、今の小学校の先生と中学校の先生お互いの意見を聞いていた中で、先生同士の教育に対する交流というものが出来たということがすごく良かったということをお互いの先生方から言われているということが、私自身聞いていて良かったと思いますし、児童生徒を考える上での教師の副産物で良かったのではないかと私としては受け取っています。その中で今後こういったものがどうなっていくのかなど、確かに麻績独自の一貫教育を目指すということで始まった部会ですが、この先が初めて麻績として保小中一貫教育が始まっていくということだと思います。区切りの年は来たけれど止めてしまっているのかなど、せっかくできた交流というのは私としてはこれからが大事になってくると思います。直接は保小中の活動に関わる事が出来る立場ではありませんが、今後のことを考えると持続することが大事かと思っています。そこは先生たちだけでなく教育委員会を含めた中でこのからの進め方、ゴールというものはどこまでいっても無いと思いますが課題というものはいつまでも持ち続けないと、ここでおしまいということとはもったいないと常々感じています。今までの3

年間の成果があまりにも良かったことを踏まえると逆に、これからの進展の方が期待するところが大きいと感じています。

**副部長**：第1回から参加いただいている方ならではの素直な感想だと思います。課題ということで交流をどうやって続けていくかゴールは当然ない話ですので、学校教育というものがある限り前に進んでいくものになります。そういう中でいかに交流の場を作っていくか、どういう形で実現していくかが課題になっていくかと思います。色々と学校の教育の中で小学校高学年が教科担任制となるとか、そういう形が出てくる中で中学校の教科担当の先生からご教授いただいたり、そういった交流が自然と出てくるのではないかと素人目線で申し訳ありませんが感じています。

**委員**：まずはコロナ禍で計画通りに物事が進まない中で保小中の先生方にはこれまで以上に連携を図っていただいたんだなということにとっても感謝しています。私も発足当時から参加していますが、本当に最初は不安の声が多かったです。それがいざ始まってみると意外と不安の声がなくて、これって親御さん含め子ども達が一番学校生活に不安を抱いていないという証拠なんじゃないかと思います。この会の最初の話ではないですが、あとはトライアンドエラーじゃないですがやっていくしかないと思います。やってみないと分からないこともあると思います。そんな中でこういったことは考え続けていかなければいけないことかと思っています。

**副部長**：発足当時あるいは麻績村として小中一貫教育というものを示した時、一般の保護者の皆さんは「どうなるんだ」「何が変わるんだ」ということで不安もあったり、どうして別々で一貫教育になるんだという声があったことも事実ですが、そういう中で学校の先生方のご努力によって不安が一つずつ解消していったのかなと思います。先ほどからの繰り返しになりますが保小中とメンバーが変わらないということで安心感があるのかなとも思います。当然デメリットもありますけれども同じメンバーで進むから中学になって人間関係の不安が少ないかなということもあるかなとも思っております。

## (5) その他

**副部長**：全体を通して何かありましたらお願いいたします。



**委員**：中学校の話聞いておまして、小中9年間共通の取組をして児童生徒を向上させていくということを考えていくと、現在小学校と中学校は施設分離型になっているので文科省の方では小学校高学年は2年後に教科担任制という話も出ていますが、施設分離で小学校と中学校の交流が先生たちの負担なく出来るかと言ったら義務教育学校などが見えてくるのではないかと感じています。村にお金がないから学校を建てる訳にもいかない中で施設分離型でやるなら義務教育学校という方向も見えてくるのではないかと思います。

**副部長**：将来的には建物も新築、増改築するということになればお金も絡んでくることになりまますので村の財政との兼ね合いもありますが、麻績村としては分離型で一貫教育をやっているということで動いていますので当面はこの流れで良いと思いますが、先生方や保護者からも出ましたような進みながら良い方向へ考えていくことが私個人としては良いと思います。

**委員**：義務教育学校って普通の一貫教育と違うところとかメリットのような部分をお聞かせいただきたいと思います。

**委員**：義務教育学校も施設一体型だけではなくて施設分離型の義務教育学校もありますので今の形でも当然あり得るかと思います。今の麻績村の一貫教育と義務教育学校の違いというとそんなに大きくないかもしれませんが、義務教育学校となると小学校と中学校二つの学校ではなくて、当然一つの学校ですので、今二つの学校の目標として「心豊かで逞しい麻績の子ども」という目標を新たに作ってありますが、学校の目標がそのまま小中の共通の目標になりますのでややこしいことなくその学校で育った子は同じ目標でやっていますので、同じ目標で切れ間なく9年間指導されて育っていくということが義務教育学校の大きなメリットだと思います。施設が離れていても今でいう小学校の先生が中学校に行って教えることが出来ますし、中学校の先生も小学校に行って教えることが出来ます。今は二つの学校であれば制度的にはボランティアで、例えば中学校の英語の教員が時々小学校に行って、1年に1回とか2回ということはあるかもしれませんが制度的には出来ないことだと思いますが、義務教育学校は一つの学校ですのでたとえ教室が離れていても教えに行くことが出来るので、そこをスムーズに出来るのは義務教育学校のメリットかと思います。今後小学校高学年が教科担任制になるということ

であれば、どういう風に小学校に教科担任制の職員が多く配置されるのかされないのか分かりませんが、単級の学校ではなかなかそういった配置が十分ではないとすれば小学校と中学校が一つの学校になることによって高学年の教科担任制の環境が整うことは可能かと思えます。そこは仕組みとしては大きなメリットだと思います。

**副部会長**：分離型の義務教育学校もあり得るものなんですね。実際に県内でそういった形の学校はあるのでしょうか。

**委員**：目指しているところはあると思いますが実際に出来上がっているかは分かりません。一体型の方がメリットはより大きいと思いますが、そう簡単に校舎が整うわけではないので。

**委員**：義務教育学校に来る先生というのは小中の教員免許を持っている先生が来るということですか。

**委員**：法律では小中両方の免許を持つということになっていますが、すぐには出来ないで猶予期間が定められていると思いますが、その猶予期間の期限が定められていないので割と今は無くても仕方ないのでということで、例えば今年義務教育学校が出来ましたとなっても元々いる先生が片方の免許しか持っていないということがあるので猶予期間がありますが、今のところ期限が決められていません。ですが今後配置していくなら出来るだけ小中の免許を持った人ということで配置されていくと思います。そうしないとさっきのメリットが無くなってしまいます。

**副部会長**：私も知らなくて申し訳ありませんが、小中学校の先生は大雑把にどのくらいの割合で両方の免許を持っていますか。

**委員**：小学校の先生は中学校も持っている場合が多いと思います。

**委員**：意外と小学校免許のみという人も多いです。

**委員**：教育学部を出てくる人は両方お持ちになられてますが、専門の学部を出て免許を取ってこられる方も多いのでどっちが良いというわけではありませんが、その場合は中学校だけもしくは中高の免許みたいな感じが多いと思います。中学校でいうと三分の一ぐらいだと思います。

**副部会長**：経済学部だとかを出てということでも中学校の免許は取れますから。

**委員**：逆に義務教育学校にすれば両方の免許を持っている先生を優先して来てもらうことが可能なのかなと思います。

**委員**：今話が出ている義務教育学校について私も過去に見学に行ったこと

があります。将来もっと先に筑北全体の学校を統合するというようなことを考えるとすれば、麻績だけで単独の学校を進めるということはいずれ支障が出てくるかと思えます。それが例えば筑北村とまったくこれから先一緒ということを考えずにやるとすれば、麻績村単独の義務教育学校を作れるだろうと思えますがそこまで踏み切れないと思えます。先ほども話がありましたが一体型の義務教育学校にするとカリキュラム等の編成などかなり自由が利きます。分離型の一貫校より明らかにメリットは大きくなると思えます。

**副部長**：一体型というのは確かに良いのですがお金が絡むことですし、この地区については筑北村とこれだけ近隣でありながら別の道を歩んでいる、これが一本化できるのかということはこの部会で何か出来る問題ではありませんが、そういうことも含めて考えていく必要があるかと思えます。

**委員**：筑北村とのことについては私が何か言える立場ではありませんが、お互いの意志を確認していく必要はあると思えますが、お互いに義務教育学校同士が統合するという事だとして道筋としてはあると思えますし、最後は統合して一つの義務教育学校という道筋も当然あると思えます。それぞれが今ある環境の中で義務教育学校を施設分離型でやっていく中で最後は統合して一つの義務教育学校になるというどちらの道筋もあると思えます。

**副部長**：日本全体で少子高齢化となっていますが、特にこういった山間地の少子化の中で急激に1学年麻績だけで40人や50人になるということは考えにくいので、いくら都市部から地方への移住があるとはいえ2人や3人増えることはあっても急激に増えることは無いと思えますので、そういう中で村の行政のトップの方がどういうお考えでいるのかということにもなってくるかと思えます。

**委員**：先ほど小中一貫教育のゴールを目指すには教職員に方向性を示していくことが課題であるということで、その示すものが先生たちだけでは決められないと思えます。先生たちの間でも交流が出来て良かったとか、今後進めていく中で今回のような話し合いが出来て良かったというメリットを聞いている裏には今後どうしたら続けていけるかという課題も考えられていると思って聞いていたんですが、今後教育委員会なり、教育長は先生たちにこれから来年度に向けてどんな指示を出すつもりなのか、どういう風に進めていこうというビ

ジョンを持っているのかをお聞きしたいと思います。学校の内容なり生徒への教育の方法というのは先生たちの力だと思いますが、先生たちに何を求めているかということを決めてやらなくちゃいけないのは教育委員会ではないかと私は思いますので、その辺りで何か方向性を考えているのであればお聞きしたいと思います。

**教 育 長:** おっしゃられることは理解しているつもりでございます。どういう風に皆さんが考えているか分からないんですが、一貫教育の今進めている部分については方向性が途中で変わるということは無いと思います。これが3年後とかにコロコロ変わるようでは一貫教育を進める部分では違うのかなと思います。ですので今進めている部分をどのように充実させるかというのが私は大事だと考えています。その辺りをこれから校長先生などと面談をする中で進めてていきたいと思います。なので施設一体型とかという話は次のことだと思っています。一貫教育の進み方がどのくらい充実しているかということで、先ほどお話も出ていましたが課題としては登校日数が減っている、教職員の働き方改革など色々で時間が取れない中で、どのように充てていくかということが教育委員会として課題があると感じています。ただ、それをクリアする、カバーするためにオンライン学習とかICTをしっかりと使えるような状況になってきていますので、そこら辺でいかに移動をしなくても上手く交流が出来るか、それを進めていけるかということの指導が必要になるかと考えています。この一貫教育の考え方を変えるということではなくて、今やっている部分を充実させていきたいなと考えています。

**委 員:** 確かに今のオンライン教育というものが実際に実施されていることで、他の学校と交流が持てたりとか、もしくは学校内だけでも授業を進めてみたりとか、そういったことが進められてきたということは次に繋がるステップだということは私も子どもを見て感じました。本当に先の将来的なことを考えるとどうなのかなということもありますが、今ここからスタートする一貫教育という旗揚げしたものがここで「良かったね」と言って終わってしまうのはもったいない話だと思いますので、その方向性というものを今の中学校の先生や小学校の先生方、新しく来る先生方にも理解をしていただけるような、皆で同じことが継続していけるような村の姿勢というものは常に示していただきたいということを感じました。よろしく願いたい

たします。

**副部長**：いつの時代も子どもの教育というものは大事な柱ですので、麻績村も今年村長の任期が来ますけれども仮に村長が変わったとしても、この一貫教育ということは変わらないと思います。あとは繰り返しになります一つひとつのことを立ち止まりながら考えるということですが、今年のコロナもそうですが予期せぬことが起きたらそこで考える。本当にコロナの部分でICTが進んでオンラインとか今までなかなか考えられなかったことが実現したということは良かったと思います。逆境がかえって追い風になったのかなとも思います。毎日子ども達と接している先生の方から何かございますでしょうか。

**委員**：両校長先生、教頭先生から発表していただきました。私たちも来年継続して取り組んでいきたいと思うことは交流型学習の質を高める、授業改善によって良い授業をして子ども達に還元していく、子ども達が安心して学べる学校、子ども達から信頼される学校づくりを引き続きしていきたいと思います。

**委員**：先ほどから話が出ていますICT教育の部分で、来年度から導入するGIGAスクール構想の実現ということで、今教育委員会の方と連絡を取りながら進めている立場として今回のタブレットの導入は今までのオンライン学習も含めて色々な可能性が見えるなど感じています。新しい学習指導要領にもありますが未来を切り開いていく資質、能力を付けていくということで、その1つのツールとして使わせていただくんですが、やってみないと分からないことはこれから先たくさん出てくると思います。それを教員から子どもに下ろすのではなくて、中学生でもあるのでこれから先は子どもたち自身に考えさせる時間を取って、生きる力になったりとか情報活用の力とか判断力を付けていけるといいかなということで、これから先色々とトラブルが起きたときに村の方や教育委員会の方に色々と助けていただくことも多いと思います。よろしくお願ひしたいと思います。

**委員**：授業づくりに関してですが、今まで私が勤めてきた学校では小中同じ先生の指導をとすることは無かったです。また小中でこんなに授業を見合うということが無かったです。例えば私は去年6年生の担任をしていて今年中学1年生になっている子達がいるんですが、その子たちの授業の様子を見に行くことが出来まして、あの時のあの子たちがこんな学び方をしているという見方を自分の中でも出来ま

したし、中学校の先生方に今年私が担任をしている3年生の授業を見ていただくことで、自分の授業の在り方というものを見つめ直すことが出来たので教師力向上ということを考えても小中一貫教育というものは授業づくりの面ですごく充実していると思います。まだまだ一人ひとりが感じたことをもっと同じ校内の先生に伝えていかないと、やっていることは素晴らしいことなのでもったいない気がします。一人ひとりが感じたことが広まって更に一人ひとりの授業力が上がっていく、それが子ども達に還元されていくということにしていきたいと思っております。

**副部長**：私も授業参観をさせていただいた時に感じたんですが、小中学校どちらも数が少ないので、校長先生はじめどの先生も全生徒を知っているなという感じがします。6年生の先生が3年生の子どもを知っているという中で、小規模校のメリットを生かして麻績の小中の先生方はやっていただいていると思います。とある校長先生も仰っていましたが麻績で100人足らずの学校から1,000人規模の学校に行くと様子が違ったということもあります、確かにそうだと思います。小規模は小規模で難しい所はあると思いますが、メリットを上手く使っていただきながら小中交流を進めて麻績の子たちが逞しく育てていただくように先生方にはお願いを申し上げたいと思います。その他に何か皆様からご意見ありますでしょうか。

**教育長**：私の方からお聞きしたいんですが、小学校で高校とのZOOM交流は何回実施しましたか。

**委員**：3回です。

**教育長**：公立校ですか私立校ですか

**委員**：私立校です。

**教育長**：教育委員会の関係で進んでいる部分で高校再編の話が長野県では進んでいます。そんな中で中信地区の高校もそうですが出来るだけ地域と一緒にやりたいという気持ちがとても強くなってきています。そんな中でせっかくZOOM等のオンラインで使える部分をもう少し進められればいいのかと感じています。特に中学校の2年生や3年生は高校の様子を知るためにもある程度の学習方法が出来るのではないかと思いますのでよろしくお願いたします。また、小学校でいえば5年生や6年生はこれから中学校に上がるということで体験学習もいいですが、その前に教科制の部分を映すだけでも出来

れば様子を見る事が出来て良いのかなと思います。騒がしくなってしまうと勉強になりませんが、そこら辺で必要な部分もあるかと思っています。これからICTで一人一台タブレットが入る中でどのように活用するかということが大事かと思っています。ただ、これを進めていくには先生方にとってとても大きな負担となるなと感じています。それを承知の上でこんな話をしている訳ではありますがぜひお願いしたいと思います。小規模校について色々考え方がありますが、子どもの人数は1学級20人くらいが一番子どものためには良いのではないかという方向性も出てきています。それを考えると今のところ麻績村はある程度15人から20人くらいで推移していくデータが出ていますが、そういう部分で少人数のメリットを生かす中で今の一貫教育を進めていただければという感じがしています。一貫校を作る、どちらかの学校を改修するということもありますが、施設を新しく建てるというと10億くらいみなければいけないかなと思います。そこら辺は政治の世界に入っていきますので置いときますが、そういった希望もあるということで教育委員会としては施設の長期化の中で考えていかないといけないのかなと思っています。ありがとうございました。

**副部長：**全般を通じて何かございますでしょうか。それでは冒頭でお話をさせていただきましたがこの部会について平成29年6月にスタートをして、当時でいえば平成32年3月で筑北中学校が学校組合立から麻績村立になるということで、そこを一応目途にということでスタートした会になりますが、そうすると平成32年が昨年、一応麻績村立筑北中学校としてスタートしましたので、一旦この部会はこれで閉じると言いますか、そういった形で違った次の段階としたら教育委員会を主に必要とあればもっと広い方のご意見を聞く会も作っていきたいと個人的には思っています。また先生方も各学校から校長先生、教頭先生、教務主任と3人も授業が終わった後とはいえお忙しい中、年3回、4回とはいえ心苦しいものがありますので、一旦この部会は閉じたいと思いますがどうでしょうか。

**全 員：**（異議無し）

**副部長：**よろしいでしょうか。それでは教育委員会から諮問されたこの部会はここで一旦区切りを付けさせていただいて、また違った会というものが教育委員会から諮問されるかもしれませんが、その時は新た

なメンバーで集まるということもあるかと思いますがそんな形でもよろしいでしょうか。P T Aの方でお子さんが小中学校にいない場合もあるかと思いますが、そういう中で外から見た意見がありましたら教育委員会事務局の方へお話していただければ私も参考にさせていただきますと思います。それではこの部会は19回を持ちまして閉じさせていただきます。よろしくお願いたします。

## 5. 閉会

**教育次長**：長時間にわたりお疲れ様でございました。以上で、麻績村の教育方針に関する研究検討委員会第19回の保育園・学校部会を閉会いたします。

(閉会 18:20)